

ペルー 早生マンダリンの輸出は減少、晩生は平年並み

[FreshPlaza 2024年6月4日](#)

ペルーの果実・野菜セクターは、重要な輸出の使命を担っている。輸出は、果実や野菜を確実かつ安定的に調製・梱包できる出荷業者、輸出業者、梱包保管業者に依存している。ワラル市に拠点を置く果実の処理・梱包企業として、生鮮果実の輸出業者に30年間サービスを提供してきたアグリユザック社はその1つだ。

同社幹部のバリサリオ A チアン・バスケス氏は、「季節ごとの取扱量の推計60%をマンダリンが、同じく35%をアボカドが占め、残りはマンゴー、ザクロ、ブルーベリー、ドラゴンフルーツである。弊社は、輸出業者から届いた果実を扱っている。出荷のピークは7月から8月である。現在、ウンシュウミカンなどの早生品種を扱っているが、エルニーニョ現象の影響で気温が高かったため開花と着果に問題があり、今年は収穫量が約40%減少した。一方、晩生のマンダリン品種は通常の量がありそうだ。これほど顕著な出荷量の減少は数十年ぶりであり、今後はこのような熱波にもっと頻繁に対処しなければならないかも知れない」と述べた。

同氏はさらに、「しかし、過度の暑さがウンシュウミカンの色や大きさに影響していないことは強調しておきたい。タンゴマンダリンは、ソフト柑橘類の出荷業者の間で人気が高まっているようだが、シーズンの終わりにはマルヴァジーアマンダリンなどの種有り品種も扱い、これは一般的にロシア市場向けである。梱包施設に入ってくる果実の約40%は国際市場の品質要件を満たさないマンダリンで、国内市場で販売される」と語った。

同社は、20トンコンテナ2,800個分に相当する量の果実を処理する。できるだけ多くの労働者を通年雇用するために、同社は取扱品目の多様化に取り組んでいる。業務のピーク時には、約600人の従業員を雇用する。同氏は、「しかし、最盛期には多くの出荷業者が労働者の雇用で互いに競合することから、最大の課題は十分な労働力を見つけることである。そのため、処理の自動化にも引き続き取り組んでいる」と述べた。

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

韓国 果実・食品の関税低減を延長

[聯合ニュース 2024年6月4日](#)

崔相穆^{チェンミョク}企画財政部長官は火曜日、インフレ抑制のため、果実の輸入関税引き下げを延長し、食料品の低減関税制度を導入すると発表した。

政府は、バナナ、パイナップル、マンゴー、サクランボなど28種類の果実に輸入関税割当による減税を適用しており、6月末までに終了する予定であった。

崔長官は、ソウルで開かれた物価関連閣僚会議の議長を務めた際に、この措置を2024年末まで延長することを決定したと述べた。

また、砂糖やコーヒー豆など12品目の関税引き下げを延長し、バターや全粉乳など7品目についても関税割当による調整制度を導入する。

同長官は、「インフレは徐々に落ち着いているものの、物価の水準が全体的に上昇して国民に負担をかけている。政府は物価のさらなる安定に努める」と述べ、企業に協力を呼びかけた。

韓国統計庁のデータによると、主要なインフレ指標である消費者物価は、5月には前年同月比2.7%上昇した。4月は同2.9%の上昇であった。2カ月連続で物価の上昇が鈍化し、3%を下回る水準にとどまった。

崔長官は、「追加的なショックがなければ、消費者物価(の上昇率)は下半期には2%台半ばかそれ以下で安定すると予想される」と付け加えた。

企画財政部は、今年の物価は2.6%上昇すると予想している。